

図3 診断的評価問題到達状況から形成的評価問題（事中評価）への達成度基準設計（5月22日）

到達段階 No. 氏名	同類項の簡略到達状況			乗法公式の本時に関するレディネス			形成的評価問題 (x+a)(x+b)の5段階に対する達成段階の予測と設計	形成的評価問題達成のための個々に対するアドバイス等	形成的評価問題の段階に対する、解決のための方法
	C	B	A	C	B	A			
1	/	/	/	/	/	/	5段階まで達成させる	スピードへの工夫	公式を直接利用
2	/	/	/	/	/	/	〃	積極的な発音、落ちつき	〃
3	/	/	/	/	/	/	4段階までは理解させる	集中力、ていねいな計算	5段階は分配法則
4	/	/	/	/	/	/	〃	計算手順、ノートのとり方	〃
5	/	/	/	/	/	/	3段階までは理解させる	同上、符号ミス	4、5段階分配法則
6	/	/	/	/	/	/			

(2) の結果とレディネス調査結果から、A段階とB段階に所属する39名については、形成的評価問題を公式を利用し、5段階とも解決させる。ただし公式のための考え方に対する理解の程度は、レディネスではあまり高くないので、公式の利用はどんな点に効果があるかを考えさせ形式的な公式の押しつけにならないよう、アナライザーや小集団の活用などをしながら授業を組織することにした。
なお未到達になるであろうと予測される生徒4人に対しては、分配法則による問題の解決に努力させて到達をねらい、そのための基礎・基本は個別指導をしておいた。

指導案への位置づけ

1 教材観

2 指導計画

3 生徒の実態把握

(1) 教材に対する興味・関心 ←

(2) 教材に対するレディネスの実態

(3) 本時の到達目標に対する到達のさせ方の工夫 ←

図4 到達度評価、(個々の変容) 多項式 単元に対する評価1~3----→(単元の累積)-----→

No. 氏名	診断的評価問題の到達状況 (30題中)				評価問題の到達状況 (20題中)				個々の変容と今後の対策	処理能力			観点別到達度評価				
	①	②	③	④	①	②	③	④		公式利用	スピード等	解決方法	自主的意欲	知識・理解	技能	考え	関心・態度
	レディネス 正答数 5月8日	把持 正答数 7月16日	事後 正答数 6月27日	把持 正答数 9月16日	レディネス変容あり 評価問題f、b	学習効果あり	評価の把持 テストf、b										
1	30題	30	20	19									+	+	+	+	
2	30	30	18	20									+	+	+		
3	17	26	14	15					○				-	+	+		
4	22	29	12	18					○				+	-	+	+	
5	24	28	16	13					○				+	-	+		

〈到達度評価② ①と③の比較〉：診断的評価問題 ———— (到達度評価③ ①と②の比較)：評価問題 ————

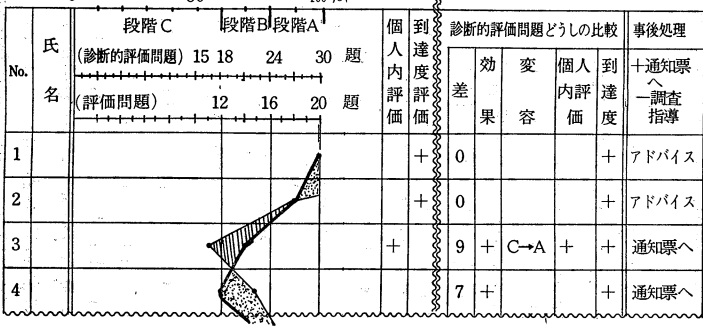


図5 1学期評価と学級担任への連絡および個別指導資料

No. 氏名	一学期評定	努力した点 向上した点	学習における本人の姿 1.準備 2.態度 3.発表 4.ノート 5.家庭学習
1	10	むだな時間をなくした。	友人に教えるようになった。
2	9	宿題を忘れなくなった。	落ちつき、むだ話B
3	4	基礎事項が定着した。	下を見ていける3C
4	4	同上	3C、5A
5	4	課題をやってくれるようになった。	2C

二学期へ努力してほしい点	観点別到達度評価			
	知識理解	技能	考え	関心・態度
学習のスピードをつける。	+	+	+	
集中して問題解決の練習をする。	+	+	+	+
意識して教師を見るように。		+		+
ノートのとり方をしっかりする。		-		-